

(様式4)

平成27年12月11日

平成27年度 第2回 大阪市立夕陽丘中学校 学校協議会 実施報告書

校園名 大阪市立夕陽丘中学校

校園長名 福山英利

日時	平成27年12月8日(火)	
場所	大阪市立夕陽丘中学校 多目的室	
出席者	委員など	川村光(委員長・座長)、富士原純一(委員)、町頭義朗(委員)、松下雄一(委員)、佐伯久徳(委員)、森川由紀子(委員)
	校園	福山英利(校長)、坂本政隆(教頭)、小松和樹(首席、生徒指導主事)、吉岡雄一郎(教務主任)
	区役所	
議題	学校の様子について報告 運営に関する計画 中間反省 分析結果 全国学力・学習状況調査 協議・意見交換 まとめ	
協議要旨	協議の結果	意見の概要
	(1) 学力向上のため、基礎・基本事項を定着しつつ、それを活用して、課題を解決しようとする姿勢をつけていく必要がある。 (2) 意見を発表することを得意としている生徒の割合が高いため、授業の中で発表力・表現力を高めていく工夫としかけをしていく必要がある。 (3) 宿題の実施率は高いので、効果的に宿題を出し、家庭と連携を図りながら家庭学習を行う習慣づけをしていく必要がある。	・家庭での生活は、できている生徒の割合は高い。学校の情報が入ってこない家庭が多いことから、子どもとコミュニケーションが充分でないと思われる。 ・地域行事に参加したボランティア生徒はよく貢献していた。社会に関心をもたせるために、地域行事への積極的な参加を促していくことが必要である。地域の人から感謝され、それが、生徒の自尊感情を高めることにつながればよいと思う。 ・教員は、よく生徒に関わり、授業等や取組みの工夫をして、指導し支援する結果、具体的に遅刻も減り、落ち着いた学校が実現できていると考えられる。
協議資料	・平成27年度 運営に関する計画・自己評価(中間反省) ・平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果 分析から見てきた成果・課題と今後の取組について ・夕陽丘中学校における平成27年度全国学力・学習状況調査結果からわかること 関西国際大学 教授 川村光	
備考	傍聴者[1]名	
	天王寺区役所 サービス窓口課課長 加守田眞志	